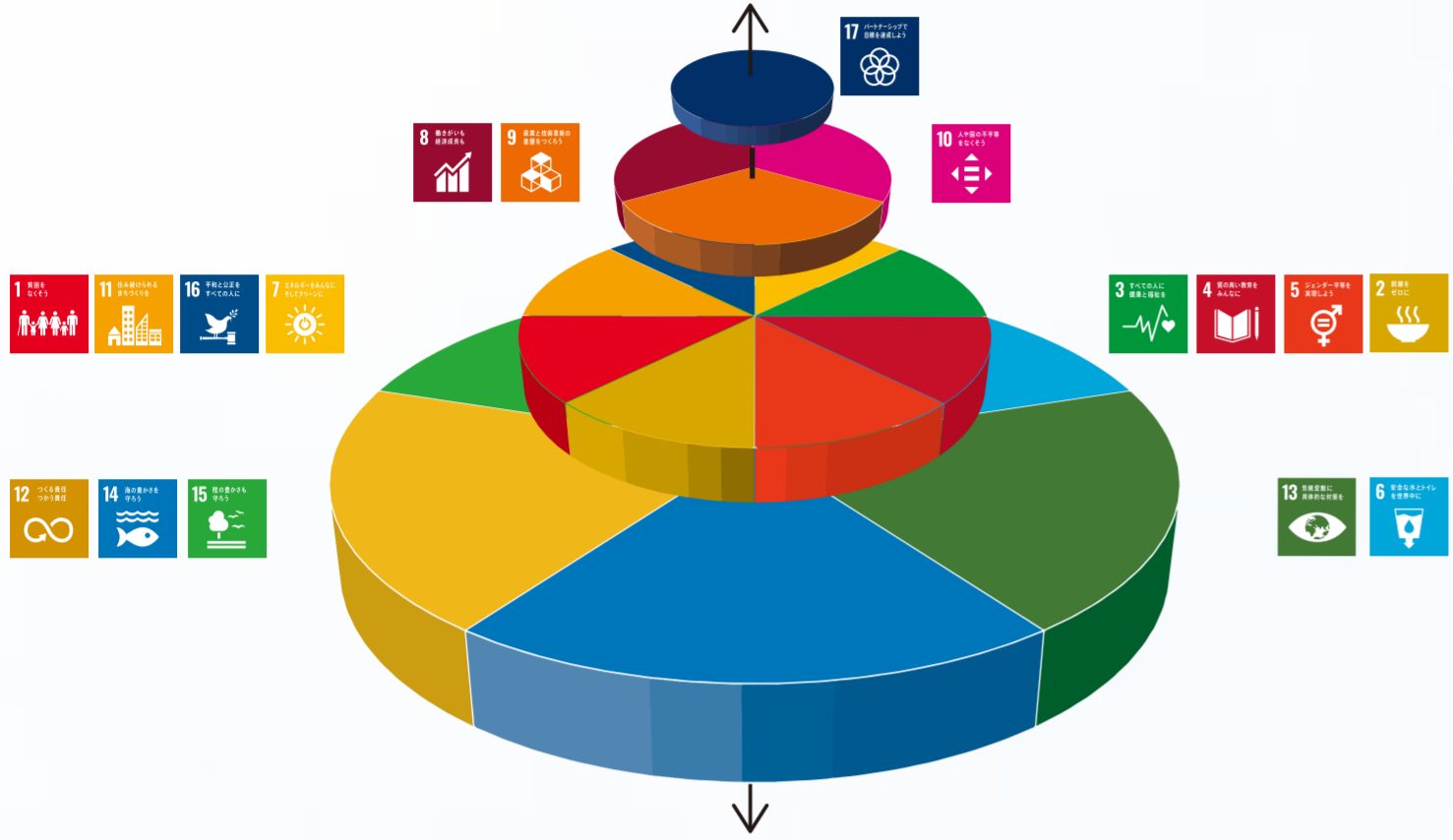


AECAは未来に生きる子ども達に、持続可能な地球を渡すために、地域の市民や事業者と一緒にSDGs目標に向かって取り組んでいます。

人間社会と経済活動の持続可能性は地球環境に支えられています



地球温暖化と異常気象



AECAはエコアクション21の地域事務局の活動を通して、環境と経済の好循環を実現するために1996年に始まった「環境活動評価プログラム」をルーツに、環境経営を支援し、企業価値を向上させる取り組みを行っています。特に企業活動から発生するCO₂は大きな問題で、SDGsのみならず2020年以降の地球温暖化の法的な枠組みとなる「パリ協定」が採択され、日本政府も今年2050年までに実質カーボンゼロ達成を宣言し、地球温暖化が原因とされる異常気象への取り組みが急がれます。



水を大切に



水の惑星といわれる地球で、飲み水にできるのはわずか0.1%、海水が98%淡水のほとんどが南極や氷河です。現在世界中で10人に1人に当たる7億8,500万人の飲み水が不足していて、毎年29万人以上の5歳未満の子どもが不潔な水しか飲むことができずに下痢で亡くなっています。日本でも河川の水質汚濁が問題で、生活排水（食器を洗った水などの油分や洗剤）も原因の一つです。



森の生物多様性を



AECAの会員は、愛知県近隣の森林で森の活動を行っています。森林保全活動により、森林を健全にすることで、CO₂の吸収能力を向上し、さらに森の生き物たちの生物多様性を守っています。また、子ども達や市民も活動に参加することで、地球環境への関心を持ち、自然を大切にすることを育てています。



環境教育



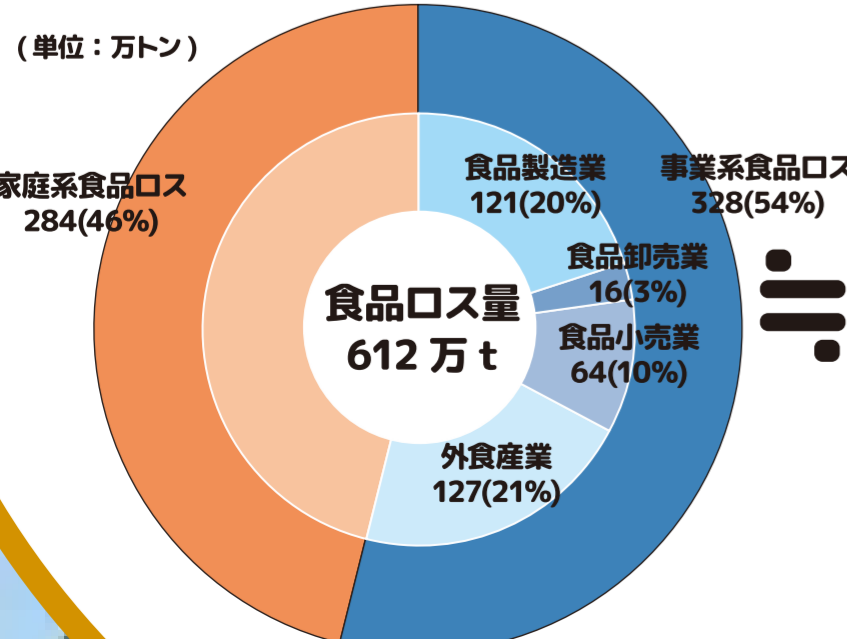
AECAは子ども達や市民向けの環境教育の他に、企業や環境カウンセラーの研修を行い、未来を生きる力を育てています。



食品ロス



まだ食べられるのに捨てられる食品を「食品ロス」といいます。世界では9人に1人が飢餓に苦しんでいるのに、日本では年間612万トンもの未だ食べられる食品が捨てられています。



国民1人当たり食品ロス量

1日 約 **132g**
※茶碗約1杯のご飯の量に相当

年間 約 **48kg**
※年間1人あたりの米の消費量(約54kg)に相当



※総務省人口推計(平成29年10月1日)
平成29年度食料需給表(確定値)

廃棄物の問題

海洋プラスチック汚染



一度だけ使って捨てるワンウェイプラスチック、このままでは2050年には海の生き物とプラスチックの量が同じになってしまうと言われています。AECAは三河湾保全活動を市民と一緒にしています。

